

# 「日本・アジア文化と人間」プロジェクト研究報告

2015 Annual Report

‘Japan and the Asia culture, and a human being’ Research Project

椋山女学園大学文化情報学部教授  
飯塚 恵理人  
Erito Iizuka

「日本・アジア文化と人間」プロジェクトでは昨年度に引き続き、3名の構成員がそれぞれメインテーマである「日本・アジア文化と人間」を踏まえ、各自の研究を継続遂行した。梅野研究員、富田研究員より下記の報告を受けたので、それに筆者分を加えて報告する。

梅野きみ子

前年度からの継続の下記2つの研究課題に取り組んだ。

## 1) 名古屋国文学研究会

所属する会員（名古屋・関西方面からの女性研究者20名ほど）が、4月4日（土）、5月9日（土）、6月6日（土）、7月4日（土）、8月22日（土）、9月5日（土）、10月3日（土）、11月7日（土）、12月5日（土）、1月9日（土）、2月6日（土）、3月5日（土）のそれぞれ午後1時～6時まで、椋山人間交流会館において、『風葉和歌集』の注釈研究のための発表会を開催した。その成果は、平成28年6月発行予定の『新注和歌文学叢書』（青簡舎）の中に『風葉和歌集新注 一』として刊行される予定である。

なお、これまでに発行した『風葉和歌集研究報』1～18号は、その叢書の体裁に合わせ

た原稿に、修正・書き換えて編集している。

## 2) 『源氏物語』の注釈研究会

本研究会では、風間書房からの共著『源氏物語 注釈十一』（浮舟—夢浮橋）を刊行するための打ち合わせを、5月9日（土）に椋山人間交流会館において、名古屋国文学研究会の開催される日の午前中に、今回の共著者、梅野きみ子、乾澄子、岡本美和子、嘉藤久美子、田尻紀子、宮田光および山崎和子の7名と風間書房社長も交えて、編集方針などの討議をした。その後の、原稿執筆のための打ち合わせは、名古屋国文学研究会の開催される日に合わせて、その開催の前後に、椋山人間交流会館において継続して開催した。その成果は、平成28年10月に刊行する予定である。

富田和子

平成27年度は前年に引き続き、18世紀以降、近世後期以降の俳諧資料の収集と整理を中心に、当該資料の収集と整理に努めた。この成果の中から、「柳江庵撰会所本『狂俳袖濡す』の紹介と翻刻」（「椋山女学園大学研究論集」47号 平成28年3月発行予定）をまとめた。柳江庵撰会所本とは、句会で撰者の柳

江庵が選んだ上位句（本書は 100 句）を掲載して出版したものである。本書は、刊記未詳ながら、表紙に「鸞亭佛追福」とある鸞亭が初代柳江庵であれば、文政二（1819）年頃刊と推定できるもので、「狂俳」の呼称の初見を、従来よりも十年早く確認できることになるものである。なお、初代柳江庵鸞亭は、『名府玉尽し』〔文化五（1808）年〕で、「俳諧風雅の達人」と評された井上士朗と並んで、「俳諧冠句達人」と評された人物である。

他に、東海近世文学会 10 月例会で、研究発表「『狂俳袖濡す』と『狂俳満願の暁』を端緒とした狂俳界の一面」を行った。この中の『狂俳満願の暁』〔文政八（1825）年〕は興行年代の明確なものであり、現時点では「狂俳」の呼称の初見である。本書の出現によって、文政期には三河だけでなく尾張でも興行が行われていたことが実証された。

更に資料を蒐集し、論文にまとめたと考えている。

ホームページを開設した（URL：<http://web.sugiyama-u.ac.jp/~kazuko/mysite3>）。

飯塚恵理人

飯塚は昨年度に引き続き、所属する「メディアと古典芸能研究会」で放送文化基金平成 25 年度助成（課題：昭和 20-40 年代民放草創期放送資料の収集・整理とアーカイブ化に関する基礎的研究、助成額：70 万円、執行は平成 26 年度になる）をいただき、椋山人間学研究センターの本プロジェクト研究費と併せてラジオ放送開始期からテレビ放送開始期前後の民間放送の放送関係資料・附属劇団の関係資料の収集・整理およびアーカイブ化を行った。民間放送附属劇団関係資料の成果については本誌「椋山人間学研究 2015」第 11 号に掲載予定である。